

春 名城公園キャンパス

5月24日(木)
18:00~20:00

テーマ

持続可能な水資源利用

～木曾川上下流の関係～

愛知学院大学総合政策学部教授 森下 英治

秋 日進キャンパス

10月6日(土)
10:00~12:00

水が豊かで緑の惑星といわれる地球。しかし、私たちが摂取可能な生活に活用できる水は、案外少ない。例えば、開発途上国で開発支援を行っているJICAでは、淡水は地球上の水の2.5%、利用しやすい湖沼や河川の水は、わずか0.01%としている。さらに、近年の気候変動による影響か、渇水と洪水の偏在が顕著に見られ、使い勝手は悪くなっている。

視点を水と森林資源に恵まれた日本に向けるとどうであろうか。水供給の制限が時としてあるが、普段は水道から必要な水が供給され、水に困ることは無い。そのため、重要な資源であるが、空気と同じように、その存在の裏方に興味を持つことが少ない。

水を便利に安心して利用し続けられることは重要であり、これを念頭に、愛知県と関わりが強い木曾川水系の上流と下流の自治体や住民の関係を調べ、今後さらに、どのような関係性を創造して行くことが望まれるのかを検討する。主には木曾川源流と愛知用水に焦点を当てるが、名古屋圏での生活者にとっては共通な課題であり、将来においても、安心して水を利用できる持続可能性について考えてみたい。



講師紹介：もりした ひではる

専攻：環境評価、環境政策、環境計画

略歴：国連地域開発センター、アジア工科大学院大学（JICA専門家）を経て平成12年より愛知学院大学情報社会政策学部（現総合政策学部）勤務。博士（工学）

主な著書・論文：『環境計画・政策研究の展開：持続可能な社会づくりへの合意形成』（分担執筆、岩波書店、2007年）など。

春 名城公園キャンパス

6月14日(木)
18:00~20:00

テーマ

持続可能な社会のための教育・学習

～健康長寿社会のために今からできること～

愛知学院大学総合政策学部准教授 榊原 博美

秋 日進キャンパス

10月13日(土)
10:00~12:00

生涯学習社会の到来といわれている今日。しかしながらその社会の持続可能性を脅かす問題、それは歯止めのかからない少子化の進行とそれともなう高齢社会の現実といえるでしょう。実際日本社会はすでに高齢化社会、高齢社会を通り抜け、今や超のつく超高齢社会を迎えています。今後はさらなる高齢化が進むことが予想されます。そのような社会を単なる高齢者社会ではなくご長寿をよろこぶことができる健康長寿社会にするにはどうしたらいいのでしょうか。そのためには今から対策することが肝要です。社会が持続することの前提に私たち一人ひとりがまさに社会の一員として持続して存在することが求められます。すなわち単なる高齢者としてではなく健康長寿で生き延びることです。一生涯を健康で過ごし学び続けるためには来るべき日にとっておく贅沢品としての学習ではなく生きるために不可欠な教育や学習が重要となります。この講義ではユネスコの生涯学習に学びながら地球環境の持続可能性との関連で個人個人の持続可能性（＝健康長寿）について考え、持続可能な生涯学習社会構築に向けた教育や学習、およびその重要性について具体的な事例などをふまえながら一緒に考えてみましょう。



講師紹介：さかきばら ひろみ

専門分野：教育学

略歴：名古屋大学大学院教育発達科学研究科博士後期課程単位取得満期退学 鈴鹿短期大学、名古屋柳城短期大学を経て2015年より現職

主な著書・論文：著『教養教育の新たな学びー現代を生きるストラテジーー』（2009）「臨教審答申にみるOECDリカレント教育の日本的受容ー政策論としての経済界の要望の側面からの分析ー」（2016）「ドイツの大学におけるシニア学生の学びーライフヒストリーからの考察ー」（2017）

※春季名城公園キャンパス公開講座と秋季日進キャンパス公開講座は同じテーマ、内容となりますが、申込みは別となります。

春 名城公園キャンパス

5月31日(木)
18:00~20:00

テーマ

持続可能なコミュニティ

～“まち”が元気になれば“ひと”も元気になる～

愛知学院大学総合政策学部准教授 村田 尚生

秋 日進キャンパス

10月20日(土)
10:00~12:00

2010年、NHKが「無縁社会」を取り上げたように、日本社会は様々な関係性がとぎれ、孤独死や自殺、ひきこもりなど人々の暮らしは不安の中にあります。こうした中、2011年3月におこった東日本大震災では、避難と復興を通して人と人の「絆」が見直され、コミュニティの存在価値が再確認されました。

それから7年が過ぎ、今コミュニティが健全さを取り戻したのか、という問いをたてたとき我々はその答えをもっているのでしょうか。それどころか、ここでいう「コミュニティ」の意味さえあいまいなままであることに気づくでしょう。

インターネットの中にも、バーチャルなコミュニティが存在し、我々の暮らしが変容しています。便利になった反面、「ネット依存」、「炎上」、「ネットいじめ」など様々な問題を引き起こしています。コミュニティのあり方について今一度立ち止まって考えてみる必要があるのではないのでしょうか。

そこで、様々な分野で語られてきたコミュニティに関する言説をひも解きながら、「まち」とそこで暮らす「ひと」を元気にするためのコミュニティのあり方を考察します。さらには希薄化したコミュニティの関係性を再生し持続可能とするための方策についても検討したいと思います。



講師紹介：むらた たかお

専攻：まちづくり、都市計画、コミュニティ論

略歴：1991年東京工業大学大学院修了。三和総合研究所、東京工業大学助手を経て、1998年から愛知学院大学。

主な論文・論文：「まちづくりがコミュニティ意識に与える影響」政策科学第5号(愛知学院大学政策科学研究所2014)

春 名城公園キャンパス

6月7日(木)
18:00~20:00

テーマ

市町村の持続可能性

～都市は消滅するか？～

愛知学院大学総合政策学部准教授 中村 悦大

秋 日進キャンパス

10月27日(土)
10:00~12:00

日本の総人口が減少に転じたのが2009年前後だと推計されていますので、日本が人口減少社会に入ってから10年が経過しようとしています。その中で、2014年に日本創生会議が発表した「消滅可能性都市」の議論は、市区町村のうちおよそ半数が世代の再生サイクルを維持できず、将来の存続も危ぶまれるという内容で、全国の自治体関係者に大きなショックを与えました。実際、すでに現在でさえ、人口が減少していく中で、特に青壮年世代の不足から様々な公共サービスの「担い手不足」に陥っている自治体が存在します。

この講義では、人口減少社会が公共サービス供給に与える影響をまず確認します。そしてこの状況に国や自治体がどのように立ち向かっているのか、具体的な取り組みと成果を紹介します。



講師紹介：なかむら えつひろ

専攻：政治学・行政学

略歴：2006年京都大学大学院法学研究科博士後期課程 満期退学、同年 愛媛大学法文学部講師、2008年同准教授、2011年学術振興会海外特別研究員（兼任）を経て、2016年より愛知学院大学総合政策学部准教授

主な著書：中村悦大「市町村規模、市町村合併と 震災復興に対する職員意識」村松岐夫・稲継裕昭編『東日本大震災大規模調査から読み解く災害対応』第一法規、2018

※春季名城公園キャンパス公開講座と秋季日進キャンパス公開講座は同じテーマ、内容となりますが、申込みは別となります。